2024 年度　一般選抜・共通テスト利用選抜

「小　論　文」採点基準説明書

１．出題のねらい

この問題は、認知症が進行した状態にある高齢女性の行動をまざまざと描写した文章を読み、女性がこの状態に至るまでに経験した悩みや苦しみを社会のあり方とも関連付けながら想像させ考えさせようというものである。受験生の比較的自由な思考を通して、**(1)病者の具体的な行動の背後にあるメカニズムに強い関心を持ち、それについてどれだけ深く綿密に考察できるか、(2)病者が経験したであろう悩みや苦しみをどれだけ豊かに想像し、共感的に寄り添う姿勢を持っているか、(3)日頃から広い視野と豊かな関心をもち、自らを取り巻く社会のあり方をどれだけ注意深く批判的に見てきたか**、といった医療者としての資質を総合的に見ることをねらっている。

２．アドミッション・ポリシーとの対応

［対応するアドミッション・ポリシー］

１．十分な基礎学力を持ち、自ら問題を発見し解決しようとする意欲のある人

→認知症の方に関する具体的な状況描写からその背後にある仕組みやそこから生じる問題を推測することができる。

２．基本的な倫理観と思いやりの心を持ち、利他的に考えることができる人

→当事者の立場に立ち、その人が認知症の症状が進行してゆく過程で経験する／したであろう悩みや苦しみを想像することができる。

３．礼節を重んじながら自らの考えを他者に伝えるとともに、他者の多様な意見を理解しようとする協調性と柔軟性に富む人

→課題文をもとに自身の知識や経験と照らし合わせながら考えたことを、わかりやすく伝えることができる。

４．多様な文化、変容する社会の中での自らの使命を理解しようとする人

→認知症の症状が進行していくなかでの人の悩みや苦しみを私たちの社会のあり方と関連づけて検討することができる。